

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	第3970100990号
法人名	社会福祉法人ふるさと会
事業所名	グルホームーブ浦戸の里
訪問調査日	平成 19 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3970100990		
法人名	社会福祉法人ふるさと会		
事業所名	グループホーム浦戸の里		
所在地 (電話番号)	高知市横浜20-1 (電話) 088-842-9195		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年5月1日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	13.5

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田脳神経外科、もみのき病院、内田内科消化器科、みやべ歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浦戸湾を見渡す眺望はゆったりとし、懐かしさを感じる風景でもある。ホームは木造で温かみがあり、落ち着いて暮らす生活環境が整っている。ハード面が利用者には良い影響を与えているのかと感じるほどに、介護度の高い利用者にもそれぞれに役割があり、いきいきとその役割を果たしている。さらにはミニデイに参加するなど、外(地域)に向けての活動も見受けられる。
また、介護計画に基づいたサービスが、日常生活の支援のなかで意識的に提供されていることも特徴の一つである。これらが相乗効果として、利用者一人ひとりが持てる能力を發揮し、互いが支え合いながら暮らすホームとなっている所以であろう。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は、①換気・空調の配慮、②金銭管理の支援、③地域の人たちとの交流の促進等が上がっていた。①の換気・空調の配慮以外は改善できていた。換気・空調の配慮は、建物は1階と2階が大きく吹きぬけになっており、窓を開けたり、清掃に努めたが、臭気が残った。建物の構造上の問題が大きい。改善に向けた努力は評価したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的は職員に周知され、この評価に前向きに取り組み、日々の暮らしの振り返りに活用している。ただし、自己評価は2ユニットを1つのものとして評価しているが、それぞれのユニットに特徴があるホームとなっていることから、それぞれのユニットで評価され、その特徴を明らかにしていくことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議においては、ホームの行事報告、行事予定、介護保険法の改定等の報告をし、意見交換はできているが、双方向的な会議には至っていない。家族の希望もあり、利用者の具体的なサービスについての報告は、プライバシー保護の観点から現在は行っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情は、2人の管理者で話し合い解決している。苦情はホームの宝であり、今後のホーム運営にとっての振り返りの材料にもなる。職員間で苦情の共有化のためにも、文書化される事を期待したい。また、家族会は運営推進会議に吸収され、現在は開催されていない。家族会のあり方や苦情解決のためのマニュアル作成も検討されることを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム独自では町内会に入会はしていないが、母体法人の特別養護老人ホームの活発な地域交流に支えられ、ホームの認知度は高い。地域住民の来訪を待つだけでなく、地域外ではあるが、ミニデイに参加するなど地域に出かける事が多く、ホームの特徴の一つとなっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。	○	理念は、ホームのめざすサービスの在り方を示すものである。住み慣れた地域で、利用者本位に、継続的な支援ができる理念を作成されることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 年度当初に職員全員で話し合いがなされている。また、年間事業計画の中においても、理念実現に向けた活動が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 理念はケアプランの中に反映され、日々のサービスに具体化している。職員も自分の言葉で理念を伝える事ができる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 母体法人の特別養護老人ホームを通して加入している。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域の一斉清掃をはじめ、催し物や運動会に利用者とともに参加している。また、ミニデイに利用者が参加するなど、地域との交流が盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 サービス評価の意義等は職員全員に周知し、評価結果の記載にあたっては各ユニットで話し合い、2ユニットをまとめて一つの評価結果としている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 前回の改善事項は職員全員で話し合い、改善に向けて検討し、積極的に実践している。改善項目によっては建物の構造上の問題もあると考えられ、改善に向けての努力は評価したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><input type="checkbox"/>会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>ホームの行事報告、行事予定、介護保険法の改定等報告し、意見交換は出来ているが、双方向的な会議には至っていない。利用者の具体的なサービスについては、プライバシーの問題から現在は行っていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいて外部評価の結果を報告し、具体的な改善策及び改善計画を策定して取り組んでいる。</p>		
	6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>ホームの近隣に民家が少ないため、研修場所等としての活用はないが、母体法人の地域交流スペースで地域住民との往来がある。積極的にホームから出かけての交流を行っており、地域外のミニデイに参加したりと、市町村職員との交流は行えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制						
	7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。</p> <p>家族の来訪時に積極的に近況報告を行っている。運営推進会議に5～6名の家族参加があり、その時にも報告している。面会の少ない利用者の家族には、請求書とともにホームでの過ごし方などの近況を手紙にしたため送っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。</p> <p>ホーム便りは発行されていないが、請求書とともに担当スタッフが手紙を書き、写真を同封するなど近況報告を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。</p> <p>状況に変化があれば、必ず報告している。</p> <p><input type="checkbox"/>金銭について用途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。</p> <p>金銭出納帳は整理されているが、家族の確認印がない。また、医療費の領収書は家族に送付し、買い物のレシート等はホームで保管するなど、全ての領収書を一括整理した管理となっていない。両者とも家族に送付するとともにホームでコピー保管し、金銭出納帳には家族の確認印を求めるなど、金銭管理の透明性を確保されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 運営推進会議に家族の出席があるため、家族会は開催していない。会議ではプライバシーが保護できる範囲での報告や個々の家族との話ができています。 <input type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 玄関に苦情箱が設置されているが、苦情が寄せられたことはない。その他の苦情には2人の管理者が話し合い、解決している。苦情は運営改善の材料であり、対応をも含め記録し、職員全員で共有することが求められる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 開設5年を経過し、法人の方針で定期的に職員異動を行っている。利用者が淋しがる声も聞かれ、また、家族からも職員の異動について要望が出されている。 <input type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。 特別の引継ぎ期間は設けていないが、退職や異動の職員は利用者へ説明し、挨拶し交替しており、残る職員の対応で混乱はない。	○	利用者と職員の馴染みの関係は、サービスの質確保を図る上で大きな要員のひとつである。馴染みの関係が希薄になることで、ケアの継続性や信頼関係が中断されることや、家族の不安や不満に繋がる可能性がある。利用者が安心し、落ち着いて暮らすことのできる環境の確保のためにも、母体法人と職員異動について検討されることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 年間研修計画を立てて研修案内等が周知され、採用条件に関係なく、希望する職員は参加できる体制ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 研修報告書を提出し、部署会で話し、閲覧できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 <input type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 母体法人が運営するグループホームとの交流はあるが、他のホームとの交流は少ない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。</p> <p>本人、家族に面接し、「私の暮らし方シート」により情報を整理している。病歴は、かかりつけ医や看護サマリーにより把握している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。</p> <p>本人や家族に見学に来てもらい、時間をとって説明を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p> <p>管理者のみが面接した後、職員と話し合い入居を決定している。</p>		利用者自身が気持ちを伝えることは難しいため、入居に至るプロセスを大切にし、管理者のみの面接ではなく、ホームに馴染めるかどうか等の判断をも含めて、複数の職員が面接することが望ましい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。</p> <p>利用者一人ひとりの意思を尊重し、業務を優先することなく、利用者がそれぞれ出来る役割を大切にサービスを提供している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。</p> <p>食事づくり、食器洗い、掃除など、利用者の持てる能力に応じ、職員とともに行っている。年長者である利用者には尊敬の念を持って接していることが言葉遣いからも窺える。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。</p> <p>「私の暮らし方シート」に記載して把握し、ケアプランに反映させている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 カンファレンスへの家族参加はないが、意見、要望等は電話や来訪時に聴取してプランに反映させている。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 担当制をとっており、アセスメントは3団体方式をホーム用に見直したツールを使用して課題を導き出してプランを作成し、モニタリング、カンファレンスは全職員が集まり行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 長期計画6カ月、短期目標3カ月で設定し、見直している。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされていてそれぞれの利用者について、退院後や急激に認知症が進行したと思われるときなど、見直しがされている。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 利用者の変化に応じ随時見直している。個別性があり、利用者の顔の見えるプランとなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 外来受診は家族で、急変時は職員で対応している。協力病院の支援があり、利用者が安心して暮らせる体制ができている。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 看取りの指針、利用者の同意書も整備されている。かかりつけ医等の支援のもと重度化にも対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 利用者の自宅を訪ねたり、外泊も本人や家族の希望により、期間制限なく自由に行えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。</p> <p>利用者や家族の意向に沿って決定している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。</p> <p>定期受診は家族が対応するが、家族の都合が悪いときは職員が支援するなど、柔軟に対応している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>受診結果に関する情報の共有ができています。</p> <p>家族が対応したときは問い合わせ、申し送りノートと処遇記録に記載し、職員間で共有している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。</p> <p>看取りの指針が作成され、利用者、家族の同意書も整備し、いつでも終末期に対応する体制は整っている。利用者によっては、かかりつけ医、家族を交えた話し合いができています。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。</p> <p>協力病院の支援があり、医療との連携のもと安心して最期を迎えられる仕組みが整備されている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。</p> <p>介護にあたっては同性介護を、排泄介助は他の利用者に悟られることのないよう配慮している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。</p> <p>利用者のプライバシー保護への配慮から、介護記録に個人名を記載しない、面会簿は居室に置くなど、細やかに心配りをしている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。</p> <p>母体法人の個人情報保護研修会のほか、ホーム内で部署会も行き、個人情報の保護を徹底している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと〔買い物や散歩等〕をは把握し、それに応じて柔軟に支援している。 買い物や散歩等は、利用者一人ひとりの思いを尊重し、できる限り希望に添った支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 利用者中心に業務を優先することなく、対応に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 利用者の希望を聞いて献立をつくり、食材は週3回スーパー等に利用者とともに買出しに行っている。食事作りに参加する利用者が多く、積極的に魚を焼く利用者やお米をとぐ利用者と、それぞれ持てる能力に応じて、また、これらが役割として定着している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じ物を食べている。食事介助もさりげなく、介助エプロン代わりにタオルを使用するなど、利用者のプライドに配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 利用者の希望に応じた入浴が提供できている。夜間入浴の希望があれば、職員が居残り対応するなど、柔軟に支援できている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 入浴を拒否する利用者には時間帯を見計らって毎日声がけし、定期的に入浴できるように努めている。発熱等で入浴ができない利用者には清拭を行い、同性介護で入浴介助を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 「私の暮らし方シート」により、利用者一人ひとりの習慣や希望、その有する能力を踏まえて、何が一人ひとりの利用者の役割になり得るかを実践の中でも把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 利用者個人の得意分野や有する能力を踏まえ、それぞれが役割を発揮できる支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 利用者の経験等を踏まえ、声がけし、継続して行うことができるようアプローチしている。また、自然発生的な役割や習慣に着眼し、それを大切に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 馴染みの美容院に家族同伴で出かけたり、ドライブがてら利用者の自宅を訪ねるなど、馴染みの場所に出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的にやっている。 車椅子の利用者も、他の利用者と同じように一緒に散歩に出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 天候や体調にもよるが、基本的にはホームの周囲を毎日散策している。食材の買出しにも数人の利用者とともに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 玄関にセンサーはなく、日中は施錠せず、自由な暮らしを支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 利用者の外出傾向は日々の生活の中で把握できている。4人の利用者が一人で出かける傾向にあるが、管理者はじめ職員は、これを当たり前のことと捉え、そつと見守っており、利用者、職員間でしっかりとした信頼関係が構築されてる。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いてい 周囲に駐在署や民家はなく、母体法人の事務所、居宅介護支援事業所、煙草屋等の商店と連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 定期的に年2回、消防署の指導のもと消防訓練を行い、記録も整備されている。防災訓練は母体法人の特別養護老人ホーム等と合同で行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 ※視認する。 消火器は定位置に設置され、食料品等は母体法人と一緒に備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 一人ひとりの食事、水分摂取量は把握している。職員間で共有するためのチェック表の活用について、検討されることを期待したい。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 利用者の希望を聞き、献立に反映している。四季の食材を取り入れるなど工夫している。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 母体法人に栄養士がいるが、献立はチェックされていない。	○	栄養バランス等、栄養士に定期的にチェックを受けることを検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 日本家で吹き抜けとなっており、開放感のある空間となっている。ソファのほか、たたみスペースもあり、好きな場所でくつろぐことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない 壁面には絵画が飾られ、上質な大人の生活空間となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 使い慣れたタンスや飾り段等が置かれ、それぞれの利用者の個性が窺える居室となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 それぞれ居室は個性的で、落ち付いて、居心地よさに配慮した居室となっている。		